

## 安楽島地区青少年育成会（三重県）

皆さん、こんにちは。三重県鳥羽市から来ました安楽島地区青少年育成会の山下です。中世古です。どうぞよろしくお願いいたします。



### 活動地域の紹介

私たちの町は三重県の南の地方にあります、海女と真珠の古里、鳥羽になります。私たちは「地域の宝、どの子もうちの子」というスローガンを掲げて、日々活動をしています。その内容をご紹介します。地域の紹介ですが、私たちの地域は、かつて海の幸を取っていた漁業の旧来の町、新たに新興住宅ができた町、そしてたくさんのホテルや旅館が建ち並ぶ町として栄えてきました。いまでは市営住宅をはじめたくさんの新興住宅ができたり、大型ショッピングセンターなどもこの近くにたくさんできて、子供たちの環境は幅広く広がっています。



### 団体概要

次に、私たちの団体の紹介をさせていただこうと思います。私たちの団体、安楽島地区青少年育成会は、平成12年、地元の小学校、中学校、自治会、町内会などの団体を中心として育成会がつけられました。それは各団体長や役員だけで構成する会だったので、もっと具体的な活動ができるような会をつくらうということ、また、平成15、16年ごろ、声掛け事案や子供たちに関する事件が増えたので、これらを見守る子どもサポーターの会をつくらうという声があがりました。



地域の方に参加を呼び掛け、約 120 人の協力を得ることができました。情報交換会をしたり、育成会の総会の中で子供たちを見守る活動の大切さを訴えてきました。

## 活動(事業)内容・特長

子供たちの安全を守る具体的な活動ですが、朝夕の通学指導の見守り。ここは非常に交通量の激しいところですが、私どもサポーターの会のメンバーが立って、子供たちの朝の登校の様子を見守る。登校してきた子供たちとハイタッチをしながら「今日は元気か」「ちゃんとごはん食べてきたか」という声を掛けながら子供たちの様子を見守り、運動会、マラソン大会などの行事があるときは、「おじちゃんが足もんだるか」と言いながら元気づけ、学校へ見送っています。帰ってきたときも、町で見掛けたら声を掛け「今日、マラソン大会はどうだったか」ということを聞きながら、子供たちの頑張り具合を確かめていく。これが子供とのふれあい、地域の中で育っていく子供たちを見守る大きな活動になっています。



このほかに、買い物の途中や朝夕の散歩の途中でいいので、自分のできる範囲で子供たちの活動を見守ってほしいということをお願いしています。そのスローガンは、「いつでも、どこでも、誰でも、そして少しでも」。少しでもいいから子供たちに声を掛けたり、子供たちの様子を見守ってほしいということをお願いしながらやっています。できる範囲で自分たちの見守り活動を、その一歩を踏み出そうということで活動をさせてもらっています。この「4でも作戦」が核になっています。

そのほかに夏休みの夜のパトロール。やはり夏休みになると子供たちの活動がいろんなところで目につきますので、それぞれの校区の小学校、中学校のPTAの皆さんや私どもサポーターの会の役員たちが、夜の9時半から10時半までだいたい1時間程度、地域を見守る。夏休みの間、だいたい3回程度やっています。



ありがたいことに、そこに地元の鳥羽警察の職員の方も来ていただきまして、私どもでは直接声を掛けにくいようなところ、例えばオートバイに乗っているときに、「君らちゃんと免許持ってるか」とか、コンビニでたむろしてたばこを吸い掛けているときに、「君たちの年齢はどれぐらいや。年齢が分かるものがあるか」と警察の方に協力をいただきながら、青少年の健全育成に努めています。

それからもう1つは、毎月ののぼり旗です。それぞれの町に、街角に「守ろう、地域の宝、どの子もうちの子」というのぼり旗があります。地域に20本ばかり立てていただいています。これを毎月5日、15日、25日という5の付く日に立て、今日は子供たちの活動を見守ろうということをお願いかけます。それから、以前からやっていたオアシス活動の「おはよう、ありがとう、失礼します、すみません」という看板も立てながら啓発活動を行っています。

こののぼり旗が立っていると、今日は子供の通学の行き帰り、帰り際にも見ていこうと気を付けていたり、鳥羽市では2時半になると全市に市内放送で「子供たちが学校から帰る時間です。市民の皆さんも子供たちの安全・安心を見守ってください」という放送も併せて流していただいて、のぼり旗と市全域に渡る市内放送による喚起とともに子供たちの安心・安全を守る活動を続けています。

併せて大事なことは、私たちが子供たちの様子をより知り合うということではないかということで、育成会の総会があったときに情報交換会を持って、それぞれの立場で活動していただいている方々に子供たちの様子を報告してもらいます。例えば、ごみを捨てようとした1年生に、上級生の子が、「ここで捨てたらいかんやないか。ちゃんと拾ってごみを処理しなさい。ごみ箱に捨てなさい」という声を掛けてくれた子供たちがいれば、それを見た民生委員や地域のお母さんたちが、「君はよう声を掛けるね。こういうことが大事、みんなできれいにしていくのが大事やな」と褒めて、子供たちの良い行いには声を掛けることにしています。

もう1つは、中学校とか高等学校の先生方との共有です。中学生が今、どんな生活態度でいるか。中学校や高校はどんなところに力を入れて子供の教育をやっているかということ、それぞれの学校から報告をいただきます。中学校も以前は少し荒れていたのですが、それぞれの校長先生はじめ先生方がやっている、こんな方法で子供たちを見守っているところを聞いて、私たちも理解できました。

今年もこういった情報交換会に、高校の先生が非常に熱心に参加していただきました。地域に高校は1つですが、高校生に地域で学ぼうという地域学を提唱しながら、いろいろなところを訪ねて自分たちで探索をしたり、離島に渡って漁業を体験したりといった地域学をやり、それをこの秋に発表するという、非常に積極的な活動をしていただきました。



私どもも、もっと子供たちと知り合おうということで、地域のふれあい活動を展開しました。地域にある放課後児童クラブなどを訪ねて、「おじちゃん、おばちゃんたちとも仲良くしようね」と声を掛けながら、子供たちと知り合う活動をしています。

大きく力を入れたのは、アジサイの植栽活動です。通学路にアジサイの花を植えていっぱいにして、ということで、通学路のそばに、みんなで育てたアジサイの苗を植えて花を咲かす活動を4年間続けてきました。毎年50本程度の花の苗を植えるのですが、夏の暑さでやられるときもあります。しかし、子供たちも一緒に参加したり、中学生たちもテニスコートの周りを一緒に植えるということで協力していただきまして、たくさんの苗が育っていくことになりました。一番大変だったのはこの暑い夏の水やりでしたが、何とか終えて、花が咲いてきました。



### あじさいの植栽

- 通学路をあじさいで花いっぱいにする
- 子どもたちや地域の人も応援
- 夏の水やりが大変

このほかに夏休みの映画会。子供たちに夏休みのプレゼントをしようということで、学校の中庭に大きなスクリーンをセットし、楽しい映画会をしました。それから、ラムネなど、夏の風物詩の飲み物を提供しました。ミッキーマウスなどの映画をはじめ、今年は「アナと雪の女王」という最新の映画の上映も行いました。



### 夏休み映画会

- 夏の夕べ 楽しい映画を
- ラムネの販売も
- 中庭の大型スクリーンで



### あじさいの苗植え

- あじさいの花が咲き始めた
- 苗を作ろう 子どもたちが協力

あわせてアジサイの苗植えをする中で、苗を子供たちに作っていただくということで、たくさん咲いた苗の花を取ってきて、子供たちと一緒にアジサイの苗づくりをしました。子供たちも興味を持ってたくさんの苗ができ、次の年にその苗を植えます。

それから避難訓練です。避難訓練を私たちが手伝おうということで、小学校の避難訓練の呼び掛けに応じて子供たちの安全を見守る活動に協力しました。こういった交通量の激しいところで見守ったり、一番の鉄則は、「釜石の教訓に学べ、高いところへ避難」ということで、それを活かす取り組みを私どもでサポートしてもらいました。

この秋に行った地域ウォーキング、子供たちもなかなか地域のことを知らないことが多いので、地元の伊射波神社という有名な神社があるのですが、そこへ家族の人と一緒に御魚取り祭りの見学に行きます。急な坂を登りながら3キロから4キロの道を歩いて神社に行きます。



### 避難訓練の協力

- 子どもたちの安全の確保
- 釜石の教訓に学ぶ 高い所へ避難



つながることができ、事件が少しずつ少なくなっているように思っています。一番ありがたいことは、お母さんたちや地域の人たちも通学路に立っている私たちを見て「本当にありがたい。これからも続けていってほしい。私たちもできたらいろんな形で活動を支援していきたい」という声をいただいています。

地域の交流を広げようということで今年10月14日には、海の家産物、畑や山で採れた農産物を持ち合いして、鳥羽マルシェをオープンして、これがまた新しいふれあいの場になって、これからはこういった場も通して子供たちの安心・安全のまちづくりのためにみんなで協力し合っていこうと思っています。ぜひおいしい海の幸、山の幸がたっぷりの鳥羽へお越しください。終わります。



## 質疑応答

●質問 育成会の中で、子どもサポーターの会をつくって運営されているということですが、私もNPOとして防犯組織を運営する傍ら、地元では育成会の運営を手伝っています。このサポーターの会というのは、育成会のメンバーの方が運営されていて、育成会の会員以外の方も参加してくるというような形なのか、人数や運営などももう少し内容を聞かせていただければと思います。

○回答 育成会の構成員は、町内会や自治会の役員、PTAの役員の方が多いので、それプラス日常活動で朝夕の登下校を見守る、それから買い物時のついでにこういったジャンパーを着ていただいて行動するのは、一般の家庭の人たちに協力してもらおう。それは登録制でやっていただけませんかというアンケートをして、やろうという方があればジャンパーを提供して活動に協力していただきます。有志の形で参加してくる方もお見えになり、高齢者の方でも散歩の途中にこれを着ていただいて協力してもらおうといったように、幅広い形でサポーターの会は存在しています。